

平成 31 年度使用高等学校  
(第 1 部)  
教科書編集趣意書

外国語 (コミュニケーション英語Ⅱ) 編

目次

	ページ
002 東書 All Aboard! Communication English Ⅱ .....	1
061 啓林館 ELEMENT English Communication Ⅱ .....	3
177 増進堂 NEW STREAM English Communication Ⅱ .....	5

発行者の 番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名
2  東 書	コ II 301	<b>All Aboard!</b> <b>Communication English II</b> 代表著作者 清田洋一

### 編集の基本方針

1. 「わかる，楽しめる，広がる，深まる」こんなプロセスを大切にした教科書を志向する。
2. 英語に十分習熟していない学習者にも配慮し，**学習内容の徹底的な厳選**を図る。
3. 学習内容が一目瞭然，焦点化できるように，**シンプルですっきりした紙面構成**を心がける。
4. 学習者の心情・知性に訴える，バラエティーに富んだ題材を用意する。それらの内容が，**学習者自らの考えを発信する活動**，そして**国際交流の素地を培うもの**であることにも配慮する。

### 編集上の留意点と特色

1. 本 Lesson の内容構成は，  
扉ページ(本文関連写真とリスニング問題) → 本文 → Reading Out → Target → Exercises  
→ Communication  
とし，「読む」「聞く」「話す」「書く」のスキル，文法の知識がバランスよく身につくようにした。
2. 「コミュニケーション英語Ⅱ」は単位数が 4 であることを踏まえ，**本 Lesson 数を 12 (ひと月 1, 2Lesson をめやす)**とし，時間配当のうえでも十分余裕をもって扱える分量にした。
3. 文構造・文法事項についても，その Lesson のねらいを明確にし，焦点化を図るため，**One Lesson One Target** を原則にした。また，扱う文構造・文法事項については，基本的かつ重要と考えられる項目に絞った。
4. 題材については，身近で興味・関心を喚起する，しかも高校生の知的好奇心を刺激するような題材を用意した。また，題材の選定にあたっては，学習者が自らの考えを発信することにつながる**今日的でテーマ性のある内容**，**学習者に生きる勇気と夢を与える内容**といった観点を重視した。
5. 学習指導要領に謳われている「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」に対応し，その Lesson の題材内容のテーマと関連して，**自らの考えやアイデアをまとめて表現したり発信したりすることをねらった「Communication」**を，各 Lesson の最後に配置した。参考例・補充語彙を示し，無理なく取り組めるものにした。
6. その他，日常会話表現を練習するための「Communication」，聞き取り練習のための「Let's Listen」，必要な情報を探す練習をするための「Getting the Necessary Information」など，**活動を通して真に英語力がつくよう多様な教材**を用意した。

## 教材配当表

	教材タイトル	言語材料
Lesson 1	My Friend in Hawaii (ハワイの友だち)	比較表現： more, the most
Lesson 2	Streetcars in My City (私の町の路面電車)	関係代名詞： what
Lesson 3	Crossing Language Barriers (言葉の壁を越えて)	現在完了進行形： <have+been+動詞のing形>
Lesson 4	The Spirit of the Forest (ヤマネー森の精霊)	間接疑問文
Lesson 5	Girl with a Pearl Earring (真珠の耳飾りの少女)	名詞を後ろから説明する分詞
Lesson 6	Grandchildren's Restaurant (まごの店)	不定詞を含む表現
Reading 1	<i>Mujina</i>	
Lesson 7	A Microcosm in the Sea (海の中の小宇宙)	動詞の目的語になる if 節
Lesson 8	Wings of Music (音楽の翼で世界へはばたく)	補足説明をする関係代名詞： <who, which>
Lesson 9	Magic of the Cotswolds (コッツウォルズの魔法)	関係副詞： <where, when>
Lesson 10	<i>Bunraku</i> (文楽)	知覚動詞
Lesson 11	Bitter Truth about Chocolate (甘いチョコレートの苦い真実)	使役動詞： make
Lesson 12	Hayabusa's Present from Space (はやぶさからの贈り物)	分詞構文
Reading 2	Olivia	

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
61 啓林館	コII313	<b>ELEMENT</b> English Communication II 代表著作者 卯城 祐司

## ■ 編集の基本方針

高校生が積極的に英語に接し、自ら英語で表現できるようになることを目標とし、編集した。題材には、高校生に生きる目標・指針を考える機会を与えるようなものや、あまり知られていない事実や新しい発見に触れ、それらについて考える機会を与えるものなどを選定した。

## ■ 編集上の留意点

- ①題材：基本方針に沿って選定した。
- ②言語材料：使用頻度・活用範囲・一般的な配列順などを総合的に判断して配列した。
- ③使用語彙・表現：広く使われている単語・表現をできるだけ多く配置し、コロケーションなどにも配慮して選定した。
- ④配列：難易度が段階的に変動するように設定した。
- ⑤構成：聞いたり読んだりした内容を理解し、それをもとに自分の考えを述べたり、まとめる機会を適宜設けた。

## ■ 通常レッスンの構成とねらい

- ①**Brainstorming**：本文に関連する写真やイラストと、それについての英語の質問を用意した。また、本文のキーワードとなる新出単語を、英語の選択問題で学習する機会を設けた。
- ②**Graphic Introduction and Retelling**：本文に関連する写真、イラスト、グラフなどを見開き2ページに収めた。本文学習前の導入素材として、また、本文学習後の **Retelling** 活動にも使えるよう配慮した。
- ③**本文**：Lesson 7 までは見開き2ページ（Lesson 8 以降は3ページ）に本文を収めた。本文に関する Q&A はリスニング問題とし、「聞いて話す」4技能の統合につながるよう配慮した。
- ④**Comprehension**：本文の内容理解につながる問題を用意した。
- ⑤**Vocabulary**：本文の重要語彙やイディオムを確認する問題を用意した。
- ⑥**Grammar and Structure**：本文の重要な文法項目を解説・確認する機会を設けた。
- ⑦**Listening Practice**：本文の内容に関連したリスニング問題を用意した。
- ⑧**Communication Activity**：本文で学んだことを「書く」「話す」活動の機会を設けた。

## ■ 全体の構成

通常のレッスン (Lesson) を 10 課, エクストラ・リーディング (Further Reading) を 3 課, より英語を楽しむための読み物 (Pleasure Reading) を 1 課設けた。また, 巻頭には, リーディング・スキルを学習するページ (Reading Skill), 巻末には, 各課に関連する内容の速読用英文 (Speed Reading) を用意した。

## ■ 教材内容

タイトル	題材内容	言語材料
Reading Skill 1~5	リーディング・スキルの解説と演習	
Lesson 1 Beyond Words	ノンバーバル・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>助動詞+完了形</li> <li>受動態の動名詞</li> <li>付帯状況を表す with A B</li> </ul>
Lesson 2 Stay Hungry, Stay Foolish	スティーブ・ジョブズの名スピーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合関係代名詞</li> <li>S+V(be 動詞)+C(that 節)</li> <li>be 動詞+to 不定詞</li> </ul>
Lesson 3 Unwanted Bicycles in Need	発展途上国で生まれ変わる放置自転車	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑問詞+do you think+(S')+V?</li> <li>動名詞の意味上の主語</li> <li>未来進行形</li> </ul>
Lesson 4 Life in a Jar	2,500 人のユダヤ人を救った命のリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>完了形の受動態</li> <li>さまざまな分詞構文</li> </ul>
Further Reading 1 Two Brainteasers	楽しい数学パズル	
Lesson 5 The Da Vinci Codex	ダ・ヴィンチの手帳の秘密	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続詞+分詞</li> <li>関係副詞の非限定用法</li> <li>独立分詞構文</li> </ul>
Lesson 6 The Solar System's Biggest Junkyard	宇宙のごみ問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>二重否定</li> <li>部分否定</li> <li>関係副詞の that</li> </ul>
Lesson 7 iPS Cells	世紀の大発見—iPS 細胞とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>不定詞の意味上の主語</li> <li>if を省略した仮定法</li> <li>同格の that</li> </ul>
Lesson 8 Selective Breeding	犬の品種改良の長所と短所	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定法の慣用表現</li> <li>完了形の動名詞</li> <li>強調構文</li> </ul>
Further Reading 2 The Little Prince and the Fox	英語で読む名作—星の王子様	
Lesson 9 Documentary Photography	写真とジャーナリズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>無生物主語</li> <li>倒置</li> <li>what を用いた強調</li> </ul>
Lesson 10 Water Crisis	水不足の問題と解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来完了形</li> <li>if 節に相当する表現</li> <li>複合関係詞 however</li> </ul>
Further Reading 3 Pyramids	ピラミッド建設の謎が解明された?	
Pleasure Reading A Retrieved Reformation	金庫破りの名人が愛のために犯した罪とは	
Speed Reading 1~10	各レッスンに関連する速読ページ	

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
177 増進堂	コ 321	NEW STREAM English Communication 代表著作者 鈴木 寿一

### 編修の趣旨及び留意点

どちらかと言えば英語に苦手意識を持つ生徒を対象に、学習指導要領に即して「本当に生徒のためになる英語教育」を実現できる教科書にするために、次の4点に配慮して編修した。

4 技能をバランスよく伸ばし、話し手や書き手の意図を理解するだけでなく、それに対する自分の考えを発表できるようにするための教材と課題を数多く用意して、コミュニケーション能力を伸ばせるように構成すること。

生徒が新しいことを学び、学んだことをさらに深く掘り下げて考え、英語に対する興味・関心を持つことができる豊かな内容を持つ教材を提供すること。

生徒の立場に立った学びやすい教科書、学び方を学べる教科書にすること。

生徒が題材に興味・関心を持つように視覚的に工夫すること。

### 基本方針

編纂に際しては、次の3点を基本方針とした

学習指導要領並びに教育基本法第2条第1号から第5号の各号に書かれた目標を実現できるように、素材を厳選するとともに、各素材にその目標を達成するために有効な課題を用意すること。

生徒の多様な実態に応じて、弾力的な指導や学習ができるように、教科書に様々な工夫を盛り込み、効果的な指導や学習が可能ないように構成すること。

本教科書を用いて指導しながら、多忙な教員でも、新しい指導法や指導技術を学ぶことができる「教師も学べる教科書」にすること。

### 特に意を用いた点や特色

生徒にとって学びやすく、学び方も学ぶことができる教科書、教職経験が少ない教員でも一定レベル以上の指導が可能で、新しい指導法を学べる教科書を目指して、次のような工夫をした。

生徒が学習する際、あるいは教員が指導する際、何をすればよいかを明らかにした。具体的には、本課の各パートごとに、大まかな内容についての日本語による質問などで、予習すべきポイントを明らかにした。

REVIEW では、まず本文全文の通読をすることで、全体の英文の流れや意味内容を再度把握させ

たあと，Summaryなどを完成させるように構成し，復習の方法を明らかにした。

文法事項や重要表現は，各 Chapter の学習前，各パートの本文とその対向ページ，そして，本文の学習後の4箇所では，簡潔な解説とともに，音声も用いた練習から自己表現まで，様々な形で繰り返し学習できるように工夫した。

各 Chapter における工夫として，英語による発表力も伸ばせるように，GET READY で重要文法事項を導入し，本文学習ページでは，インプット中心の For Comprehension とアウトプット中心の For Interaction，そして本文中で用いられた重要表現をまとめた GRAMMAR & EXPRESSION の3部構成とした。本文学習後は，REVIEW で語彙，本文内容のまとめ，文法表現練習，最後に ACTIVITY で発展的な学習ができるように構成した。以下，各項目についての工夫を述べる。

#### Get Ready

各 Chapter のポイントとなる文法事項を，可能な限り状況が明確な対話や短い文章をリスニングさせたり書き取らせたりすることによって導入した後，音読で定着をはかり，スピーキングでアウトプットさせて，文法を4技能と結びつけて導入する。

#### For Comprehension

1st Reading から 4th Reading までの4ステップに分けることにより，英文を繰り返し聴いたり，読んだりする機会を保障できるようにした。1st Reading では概要，2nd Reading では要点を問う設問に，それぞれ日本語で答えるようにし，3rd Reading では英語による True or False Quiz 形式で細部について内容理解を試し，4th Reading では英文中の語句の内容について尋ねる設問を用意した。

#### For Interaction

音読から再生を中心とするアウトプット活動，自分の考えを述べる産出を中心とするアウトプット活動から成る。

#### GRAMMAR & EXPRESSION

左ページの本文に現れた重要な文法事項や表現を提示し，その表現が本文中のどこに出てきたかを探させてスキミングの練習をする機会を提供するとともに，日英左右対称にして，ペアワークによる「日英通訳演習」を可能にして，学習した言語材料が定着するように構成している。

リーディングの能力を伸ばすことと，読書本来の「楽しさ」を生徒に経験してもらうために，おもしろく，感動的なものを厳選して，Optional Reading (2編)として用意した。内容を理解する作業が中断しないように，生徒にとって難しいと思われる語句には，本文の該当する語句の下に日本語の注をつけるとともに，一人で読み進めていけるように，導入部と物語の展開が変わる箇所には日本語のリーディング・ガイドをつけて，先を予測しながら英文を読めるように工夫した。